



◇委員の紹介◇

三井物産株式会社
常務執行役員 経理部長

栗原 雅男

このたび、企業会計基準委員会（ASBJ）の委員として再びお役目を仰せつかることとなり、その重責に身の引き締まる思いでおります。改めまして、委員会関係者の皆様、関係諸団体の皆様から賜りましたご信任に、心より御礼申し上げます。

近年、企業会計を取り巻く環境変化は大きく加速してきています。企業活動のグローバル化や事業構造の多様化の進展に加え、AI を始めとするデジタル化の加速、さらにはサステナビリティ情報への関心の高まりなど、会計情報に求められる役割は、これまで以上に高度かつ多面的なものとなっています。斯かる中、ASBJ が果たすべき使命、即ち、我が国の資本市場への信用を支える基盤としての高品質で信頼性の高い会計基準を開発・整備することは、一層重要性が増していると強く感じております。

これまでの委員としての活動を通じて、会計基準の開発・改正は、単なる理論構築ではなく、実務への影響や利用者の理解可能性を含めた総合的な検討が不可欠であることを実感しているところです。様々なバックグラウンドを有する委員や関係者との建設的な議論の積み重ねこそが、実務に根差し、かつ国際的にも説得力のある基準につながるものと信じております。

再任にあたり、今後はこれまで以上に、実務家としての経験を生かしつつ、財務諸表作成者、利用者、監査人など、多様なステークホルダーの視点を意識して議論に貢献していきたいと考えております。ASBJ の中期運営方針に言及のある金融商品や保険契約に係る会計基準など、国際的な会計基準との整合性を踏まえつつ、日本の企業実務や経済環境の特性に即した適合案を模索し、我が国独自の視点を踏まえた会計基準開発を進めることに注力してまいります。

また、本邦資本市場で重要性が増しつつある IFRS 会計基準にあって、IFRS 第 18 号における持分法投資に関する表示など、我が国の見解とは隔たりがある基準もあります。こうした見解の差異を極小化し、出来る限り本邦関係者が受け入れ易い基準とするためには、その開発段階から意見表明していくことが大事です。IFRS 適用企業の実務関係者の一人としても、ASBJ において積極的に議論に参加し、意見発信に貢献できればと考えております。

委員長及び委員の紹介

もとより、私一人の力で成し遂げられることは限られており、委員会関係者の皆様との率直な意見交換と協働が不可欠です。引き続き謙虚な姿勢を忘れず、幅広いご意見に真摯に耳を傾けながら、ASBJ の活動に微力ながら誠心誠意尽くしてまいります。

今後とも、皆様のご指導とご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。